恋しき最後の丘

漢那浪笛

青空文庫

その一

うら若(わ)かき頃の、悲しきあこがれ……
草葉の息ふきかへす甘き香り、
艶(うる)はしき花の笑ひもながめて過ぎぬ、
木の間にさへずる、鳥の歌をきゝ、
悲しみは眼(め)を閉ぢて、暫時(しばし)やすらひもせし、
されど、とく新らしき悲しみに転りぬ、
何をもて、この闇を照さむ、
空を仰げば恐(おそ)ろし……
いざさらば、独り琉球節の一曲(ひとふし)を、
口笛にふるわせ、
うらやすき墓場のほとりにさ迷はむ、
そは音なき響きを（聞）かんとや……

その二

わが思ふ女（ひと）のありやなしや、
まよはしきかな、
夕暮の窓にもたれて、蒼白き息ふくわれも、
またありやなしや、
あなうたがはし、
蚊のなく声を、君が悲しき唄とやきかむ、
柔風（かぜ）の木の葉にすがる、たはふれを、
君が、鬢（びん）のほつれもやきかむ、
淋しき夕（ゆう）べの鏡もきこゆ、——
森の彼方（かなた）、君住む墓のほとりにやはあらむ、
今なり！　われは独りさ迷ひゆかむ……
夕べの鐘をしたひて、
その音に耳を沈めて。

その三

なつかしい丘の上、
棕梠の若葉のそよぎ、小鳥の歌、
傾むきつくす夕陽(ゆうひ)も、
見る〳〵最後の接吻(きつす)をのこして、

深い〳〵海の彼方へ去らうとする、
なつかしい丘の上に、Kの君を待つ心よ！
夢を語るやうな暮の風に顫へる、
葉づれの音に眼が狂(くる)へば、
西へ東に、足が動きだす……
夫れと思ふ俤が、更に眼にとまらぬ、
胸を抱いて、深い悲しみに沈む、
林の間に、夜の色が浮び出した……
黒ろい恐ろしい影は、
私の魂(たましい)を圧しはじめる、
もう是れが私の、Kの君に対する最後だ！

青空文庫情報

底本：「沖縄文学全集　第1巻　詩※［#ローマ数字1、1-13-21］」　国書刊行会
　　1991（平成3）年6月6日第1刷
初出：「琉球新報」
　　1911（明治44）年11月12日
※底本では、見出しの上に二行どりの横罫が置かれています。
入力：坂本真一
校正：良本典代
2017年6月25日作成
青空文庫作成ファイル：
このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（http://www.aozora.gr.jp/）で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

恋しき最後の丘

漢那浪笛

2026年10月1日　第二版

奥　付

発行　　青空文庫

URL　　http://www.aozora.gr.jp/
E-Mail　　info@aozora.gr.jp

作成　　青空ヘルパー　　赤鬼@BFSU
URL　　https://aohelp.club/
BiliBili　　https://space.bilibili.com/10060483

Special Thanks
　青空文庫　威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー http://aohelp.club/
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
http://tokimi.sylphid.jp/